

東部在宅医療・介護連携研究会第7回事例検討会（グループワーク意見）

（同居の子への支援など）

- ・子と両親が同居していたのが一番の問題。もう少し早い段階でケアマネ、保健師が介入しケアできていれば。
- ・精神疾患の子を家で看ている親が高齢になり、関係性が悪化しこのような事態になってしまふケースもあるのではないかな。
- ・保健師介入後の子への支援がどのようなものだったのかな。
- ・引きこもりの子の存在を両親は隠したかったのだろうか？

（社会・地域とのかかわり）

- ・地域のネットワーク（民生委員、町内会長など）の利用を検討すればよかった。
- ・（退院時の）ケアマネジャーの具体的な関わりが知りたい。
- ・ヘルパーが入った時に、弟夫婦も介入できたのではないかな。

（サービス内容等）

- ・訪問介護開始後8か月になるまでに、医師に繋げることができなかったのかな。
- ・訪問看護は入れなかったのかな。
- ・薬剤師も介入できたかもしれない（薬を宅配する薬局もある）。
- ・介護と障がい担当の連携が密に取れていれば、受診等に繋がったのではないかな。
- ・入浴に繋がったのは支援の成果だったと思う。

（その他・参加者アンケートより感想の一部）

- ・老老介護、ひきこもり等、現代社会の問題点を取り上げたテーマだと思った。
- ・意外と身近にあるケースだと思う。今後、増えて行くように思うので参考にしたい。
- ・ケアマネとして何ができるのか考えさせられる事例でした。多職種と連携、多職種で関わることが大事だと思う。
- ・ケアマネの立場での困難事例報告は多いが、訪問介護の立場の報告であり、立場によって違うところもお互い理解できた。
- ・今の情勢、少なくない大変な事例と思った。様々な意見を聞いて勉強になった。
- ・難しい事例であった。子への支援からと思った。
- ・高齢の両親と精神疾患の子という家族構成が増えているように思う。今回、検討出来て良かった。